

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

製品を使っていて困ったときやわからないことがあったときに使うマニュアルです。

**対応するカメラについて**

本機は、ソニーのレンズ交換式デジタルカメラなどのマルチインターフェースシューを搭載したカメラに対応しています。

- マルチインターフェースシューが搭載されたカメラであっても、使用できない場合や一部機能に対応していない場合があります。
- 本機は製造時にレシーバーとマイクロホンのペアで通信できるように設定されています。そのため一般のBluetooth機器に必要なペアリングやパスキーの入力操作は必要ありませんが、本機以外のBluetooth機能搭載デバイスとは通信できません。

本機に接続可能なカメラについては、こちらからご確認ください。（別ウィンドウで開きます。）

「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」と表示されたら

こちらをご確認ください。

各部の名称**準備**

[本体と付属品を確認する](#)

[レシーバーを充電する](#)

[マイクロホンを充電する](#)

[レシーバーをカメラに取り付ける](#)

[ポップガードを取り付ける](#)

[スタンドを取り付ける](#)

[端子保護ホルダー／スタンドを取り付ける](#)

録音

[カメラに接続して録音する](#)

パソコンやスマートフォンなどに接続して録音する

— [マイクロホンとパソコンやスマートフォンなどを有線接続して録音する](#)

— [パソコンやスマートフォンなどと無線接続して録音する](#)

[音声をモニターする](#)

[ヘッドホン音量を調整する](#)

[MIX比を調整する](#)

[ランプ表示](#)

[本機について](#)

[使用上のご注意](#)

[Bluetooth®無線通信技術について](#)

[主な仕様](#)

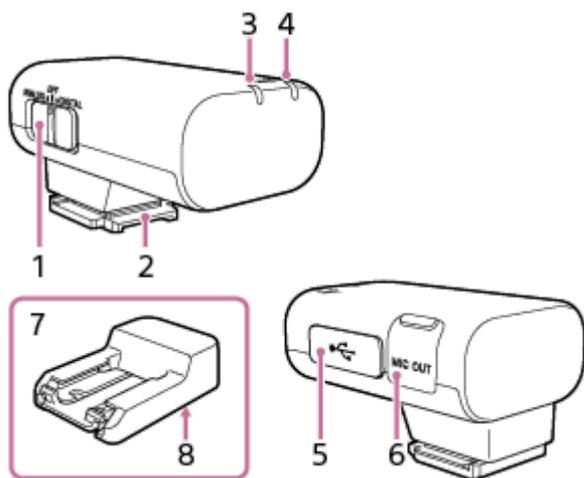
[商標について](#)

[「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」と表示されたら](#)

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

各部の名称

レシーバー



1. スライドスイッチ (ANALOG/OFF/DIGITAL)

アナログ音声出力/電源OFF/デジタル音声出力を切り替えます。

- お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース対応機器の場合は、「DIGITAL」に設定します。
レシーバーからカメラへデジタル信号で音声を伝送することにより、「ANALOG」に設定した場合と比べて、以下のメリットがあります。
 - ノイズの混入を抑えた音声収録
 - 収録時の音声遅延の軽減
 - 24ビット音声の収録 (対応カメラのみ)

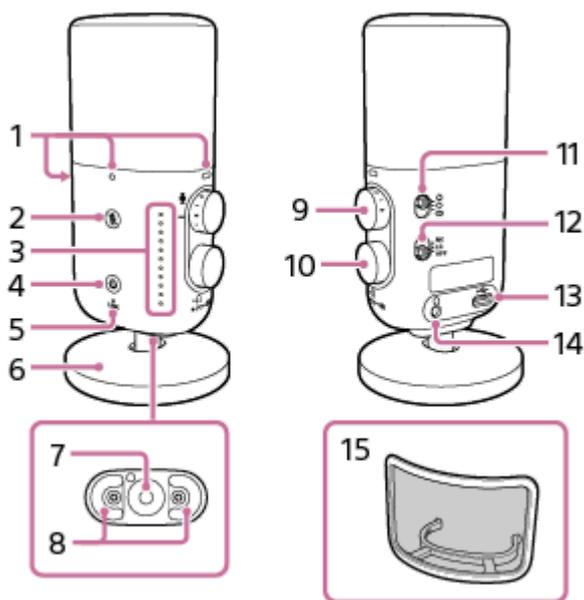
ご注意

- 24ビット音声に対応していない機器やソフトウェアで24ビット音声で記録された動画を再生すると、意図せず大きな音が出たり、音が出ないなど、正常に再生されない場合があります。
- お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース非対応機器の場合は、「ANALOG」に設定します。
「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」と表示されたら、「ANALOG」に設定してください。
それでもお使いいただけない場合には、[こちら](#)をご確認ください。
- レシーバーに市販の $\phi 3.5$ mmプラグ付きTRSオーディオケーブルが接続されている場合は、ケーブル経由でアナログ出力されます。
- レシーバーにUSBオーディオ入力対応機器が接続されている場合は、デジタル出力されます。
- 電池の消耗を防ぐために、使用しないときはスイッチを「OFF」にしてください。

2. マルチインターフェースフット

3. 電源ランプ（緑：電源ON、オレンジ：充電中）
レシーバーの電源、充電の状態を確認できます。
オレンジ色で点滅し続けている場合は、充電が必要です。
4. LINKランプ
レシーバーとマイクロホンの接続状態を確認できます。
5. USB Type-C®端子
市販のUSB Type-Cケーブルで接続し、レシーバーの充電／給電を行います。
パソコンやスマートフォンなど、USBオーディオ入力対応機器に接続して録音することもできます。
6. マイク出力端子
レシーバーとカメラのマイク入力端子を、市販のφ3.5 mmプラグ付きTRSオーディオケーブルで接続することにより、録音することができます。
7. 端子保護ホルダー／スタンド
お買い上げ時はレシーバーに装着されています。
8. 三脚用ネジ穴（1/4インチ）

マイクロホン



1. ポップガード取り付け部
2. （消音）ボタン／ランプ（赤：消音モードオン）
3. インジケーター
初期設定の表示は、レベルメーターモードです。
レベルメーターモードの状態ではッドホン音量／MIX比調整ダイヤルを短く押すと、表示モードをヘッドホン音量調整モードに切り替えられます。
また、レベルメーターモードの状態ではッドホン音量／MIX比調整ダイヤルを約2秒間押し続けると表示モードをMIX比調整モードに切り替えられます。
レベルメーターモードに戻すには、ヘッドホン音量調整モードまたはMIX比調整モードのときに、ヘッドホン音量／MIX比調整ダイヤルを短く押すか、3秒以上操作しない状態を保ってください。
4. （電源）ボタン／ランプ（緑：電源ON、オレンジ：充電中）
マイクロホンの電源、充電の状態を確認できます。
オレンジ色で点滅し続けている場合は、充電が必要です。
5. LINKランプ
レシーバーとマイクロホンの接続状態を確認できます。

6. スタンド

お買い上げ時はマイクロホンに装着されています。

7. 三脚用ネジ穴 (1/4インチ)

8. スタンド取り付け穴

9. AUDIO LEVELダイヤル

マイクロホンから録音される音声の録音レベルを調節できます。

ご注意

- AUDIO LEVELダイヤルを操作しても、パソコンやスマートフォンからのUSBオーディオ入力のレベルは変化しません。

10. ヘッドホン音量/MIX比調整ダイヤル

短く押すとヘッドホン音量調整モードに、約2秒間押し続けるとMIX比調整モードに切り替わります。

11. 指向性切り替えスイッチ

⊙：モノラル 単一指向性

背後の音は抑えつつ、前方の音を幅広く収録できます。ポッドキャストやナレーションなど、使用者が一人で話すような場面に適しています。

○：モノラル 全指向性

すべての方向に等しい感度を持ちます。複数の人の声の収録や、その場の雰囲気をつめた収録に適しています。

⊞：ステレオ 単一指向性

左右の音の広がりを臨場感豊かに捉えます。音楽の収録などに適しています。

12. フィルタースイッチ (NC/LC/OFF)

NC：ノイズカットフィルターを使うときに選択します。耳障りな雑音をデジタル信号処理で効果的に除去します。音質に違和感が生じる場合には「OFF」にします。

LC：ローカットフィルターを使うときに選択します。風切り音や空調ノイズ、振動ノイズなどの不要な雑音を低減します。

OFF：フィルターをオフにします。

13. USB Type-C端子

市販のUSB Type-Cケーブルで接続し、マイクロホンの充電/給電を行います。

パソコンやスマートフォンなど、USBオーディオ入力対応機器に接続して直接録音することもできます。

14. ヘッドホン出力端子

マイクロホンをパソコンやスマートフォンなどとUSB接続している場合に、市販のヘッドホンをつないで音声をモニターすることができます。

15. ポップガード

マイクロホンに取り付けて使用します。

口をマイクロホンに近づけて息が直接あたるときに発生するポップノイズを減らします。

関連項目

- [レシーバーを充電する](#)
- [マイクロホンを充電する](#)
- [ポップガードを取り付ける](#)
- [スタンドを取り付ける](#)
- [端子保護ホルダー/スタンドを取り付ける](#)
- [カメラに接続して録音する](#)
- [ヘッドホン音量を調整する](#)
- [MIX比を調整する](#)

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

本体と付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。

() 内の数字は個数です。

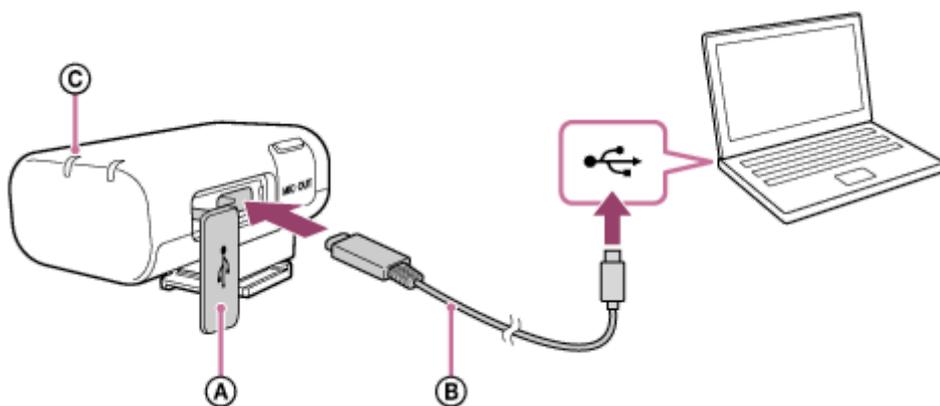
- レシーバー (1)
端子保護ホルダー/スタンド (装着済み) (1)
- マイクロホン (1)
スタンド (装着済み) (1)
- ポップガード (1)
- ポーチ (1)
- 印刷物一式

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

レシーバーを充電する

市販のUSB Type-Cケーブルを使ってレシーバーを充電します。

1 端子カバーを開けて、USB Type-C端子にUSB Type-Cケーブルを接続する。



- Ⓐ 端子カバー
- Ⓑ USB Type-Cケーブル
- Ⓒ 電源ランプ

2 起動中のパソコンなどにつなぎ、充電する。

電源ランプ（オレンジ）が点灯します。

3 充電が完了したら、レシーバーからUSB Type-Cケーブルを外す。

電源ランプが消灯したら充電完了（満充電）です。

ご注意

- レシーバーをパソコンに接続しているときに、無理な力を加えないでください。レシーバーやパソコンが破損することがあります。
- 電源を接続していないノートパソコンとレシーバーを接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗する場合があります。レシーバーを接続したまま長時間放置しないでください。
- 自作パソコンや改造したパソコンでの充電や接続は保証できません。同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。
- パソコンがスタンバイ（スリープ）や休止状態になると充電できなくなります。この場合はパソコンの設定を変更して、充電しなおしてください。
- 長い間使わなかったときは、充電式電池の持続時間が短くなる場合があります。何回か充放電を繰り返すと、十分に充電できるようになります。長期にわたって保存する場合は、過放電防止のため、半年に1回程度の充電を行ってください。
- 長い間使わなかったときは、充電時間が長くなる場合があります。
- レシーバーの充電式電池に問題がある場合、充電中に異常を検知するとレシーバーの電源ランプ（オレンジ）が点滅し続けます。

周囲の温度が15℃から35℃の範囲で充電することをおすすめします。この範囲を超えると、効率のよい充電ができないことがあります。

それでも問題が解決しない場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。

- レシーバーを長期間お使いにならなかったあとに充電を行った場合、レシーバーの電源ランプ（オレンジ）がすぐに点灯しない場合があります。電源ランプ（オレンジ）が点灯するまでしばらくお待ちください。
- 電池の持続時間が極端に短くなった場合は、充電式電池の交換時期です。ソニーの修理相談窓口にご相談ください。
- 急激な温度変化や、直射日光、霧、砂、ほこりや電気的な衝撃を避けてください。また駐車中の車内には、絶対に放置しないでください。
- レシーバーをパソコンと接続するときはUSB Type-Cケーブルのみを使い、必ず直接つないでください。USBハブなどを経由して接続すると、正しく充電されません。

関連項目

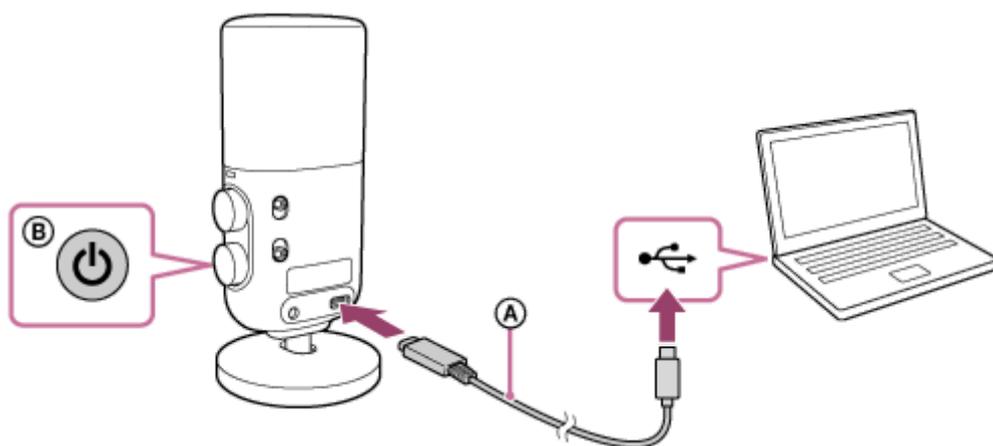
- [ランプ表示](#)

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

マイクロホンを充電する

市販のUSB Type-Cケーブルを使ってマイクロホンを充電します。

1 マイクロホンに市販のUSB Type-Cケーブルをつなぐ。



- Ⓐ USB Type-Cケーブル
- Ⓑ (電源) ランプ

2 起動中のパソコンなどにつなぎ、充電する。

(電源) ランプ (オレンジ) が点灯します。

3 充電が完了したら、マイクロホンからUSB Type-Cケーブルを外す。

(電源) ランプが消灯したら充電完了 (満充電) です。

ご注意

- マイクロホンをパソコンに接続しているときに、無理な力を加えないでください。マイクロホンやパソコンが破損することがあります。
- 電源を接続していないノートパソコンとマイクロホンを接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗する場合があります。マイクロホンを接続したまま長時間放置しないでください。
- 自作パソコンや改造したパソコンでの充電や接続は保証できません。同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。
- パソコンがスタンバイ (スリープ) や休止状態になると充電できなくなります。この場合はパソコンの設定を変更して、充電しなおしてください。
- 長い間使わなかったときは、充電式電池の持続時間が短くなる場合があります。何回か充放電を繰り返すと、十分に充電できるようになります。長期にわたって保存する場合は、過放電防止のため、半年に1回程度の充電を行ってください。
- 長い間使わなかったときは、充電時間が長くなる場合があります。
- マイクロホンの充電式電池に問題がある場合、充電中に異常を検知するとマイクロホンの (電源) ランプ (オレンジ) が点滅し続けます。

周囲の温度が15℃から35℃の範囲で充電することをおすすめします。この範囲を超えると、効率のよい充電ができないことがあります。

それでも問題が解決しない場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。

- マイクロホンが長期間お使いにならなかったあとに充電を行った場合、マイクロホンの （電源）ランプ（オレンジ）がすぐに点灯しない場合があります。 （電源）ランプ（オレンジ）が点灯するまでしばらくお待ちください。
- 電池の持続時間が極端に短くなった場合は、充電式電池の交換時期です。ソニーの修理相談窓口にご相談ください。
- 急激な温度変化や、直射日光、霧、砂、ほこりや電気的な衝撃を避けてください。また駐車中の車内には、絶対に放置しないでください。
- マイクロホンパソコンと接続するときはUSB Type-Cケーブルのみを使い、必ず直接つないでください。USBハブなどを経由して接続すると、正しく充電されません。

関連項目

- [ランプ表示](#)

5-054-814-01(1) Copyright 2023 Sony Corporation

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

レシーバーをカメラに取り付ける

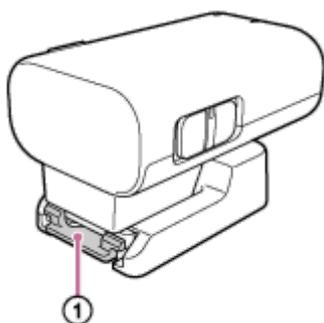
レシーバーをカメラに取り付けます。

ご注意

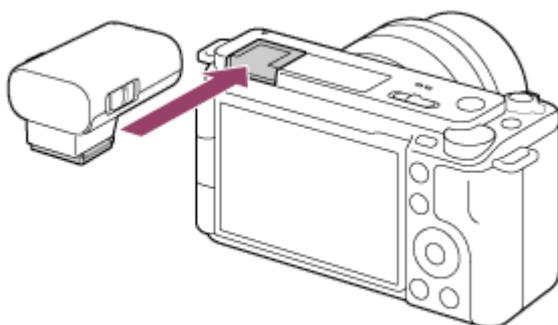
- 取り付ける前に、レシーバーを十分に充電してください。
- 取り付ける/取り外す際は、レシーバーとカメラの電源を切った状態で行ってください。

1 端子保護ホルダー/スタンドを取り外す。

端子保護ホルダー/スタンドの保持レバー (①) を少し下げ、レシーバーを引き抜いてください。



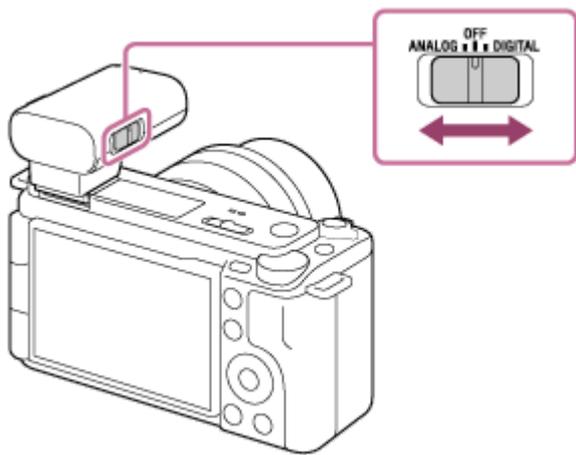
2 カメラのマルチインターフェースシューとレシーバーのマルチインターフェースフット的位置を合わせて、取り付ける。



ご注意

- レシーバーをカメラのマルチインターフェースシューにしっかり奥まで差し込んでください。
- カメラの内蔵フラッシュが上がっている場合は、下げてください。

3 スライドスイッチの設定を確認する。



お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース対応機器の場合は「DIGITAL」に、非対応機器の場合は、「ANALOG」に設定されていることを確認してください。正しく設定されていない場合、互換性についてのメッセージが表示されます。対応機器については、以下のサイトでご確認ください。

<https://www.sony.net/dics/ecms1/>

取り外すときは

レシーバーを、取り付け方向と反対にスライドさせてください。

関連項目

- [レシーバーを充電する](#)

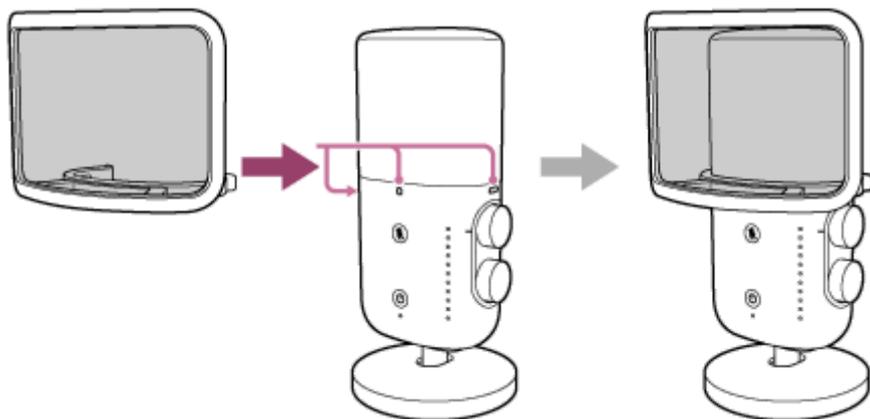
ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

ポップガードを取り付ける

ポップガードをマイクロホンに取り付けて使用します。

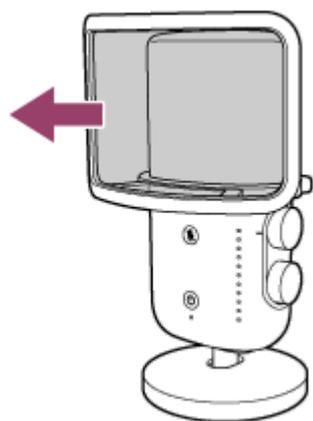
口をマイクロホンに近づけて息が直接あたるときに発生するポップノイズを減らします。

- 1 マイクロホンにあるポップガード取り付け部を目印にして、以下のイラストのようにポップガードを取り付ける。



取り外すときは

ポップガードのフレーム部分を持って、取り外してください。



ご注意

- マイクロホン本体に付けたポップガードを持って無理な力を加えたり振り回したりすると、ポップガードが外れ、怪我につながる可能性があります。持ち運びの際はマイクロホン本体を持ち、取り扱いにご注意ください。

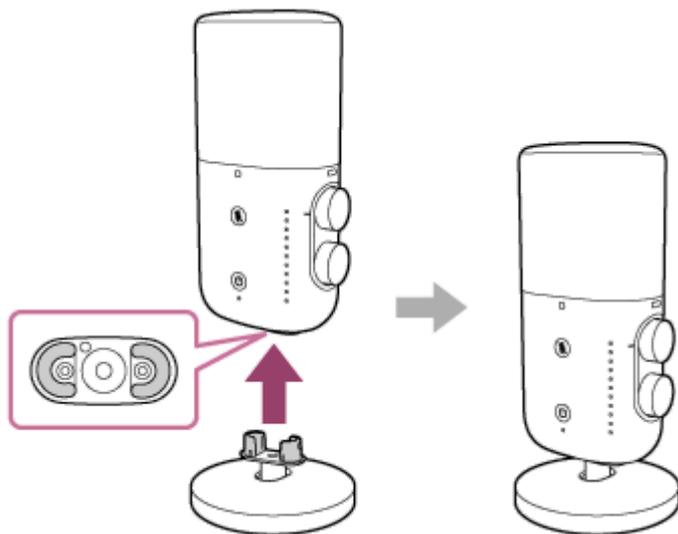
ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

スタンドを取り付ける

スタンドを取り付けることで、録音中にマイクロホンを自立させることができます。また、マイクロホンの角度を前後に調整することもできます。

お買い上げ時、スタンドはマイクロホンに装着されています。

- 1 マイクロホンのスタンド取り付け穴に、スタンドの突起部を「カチッ」というまで差し込む。



取り外すときは

マイクロホンを持って、スタンドを引き抜いてください。

ヒント

- スタンドを使用しない場合は、マイクロホンの底面にある三脚ネジ穴（1/4インチ）に市販の変換アダプターを接続して、市販のブームアームを取り付けることができます。

ご注意

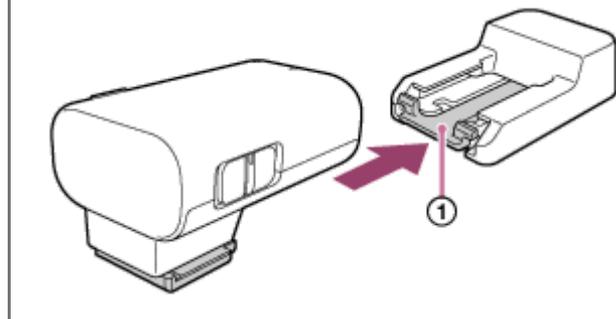
- マイクロホン本体に付けたスタンドを持って無理な力を加えたり振り回したりすると、スタンドが外れ、怪我につながる可能性があります。持ち運びの際はマイクロホン本体を持ち、取り扱いにご注意ください。

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

端子保護ホルダー／スタンドを取り付ける

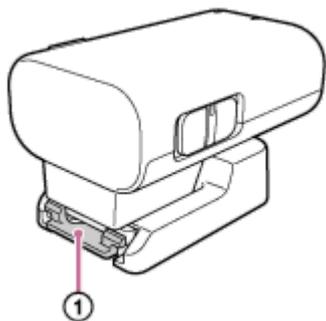
レシーバーを持ち歩く際は、端子保護ホルダー／スタンド（付属）を取り付けます。

- 1 端子保護ホルダー／スタンドに、レシーバーのマルチインターフェースフットを「カチッ」というまで差し込む。
端子保護ホルダー／スタンドの保持レバー（①）を少し下げながら差し込んでください。



取り外すときは

端子保護ホルダー／スタンドの保持レバー（①）を少し下げ、レシーバーを引き抜いてください。



ヒント

- レシーバーをカメラから離して設置するときは、端子保護ホルダー／スタンドを装着することでレシーバーを平滑な面に置いて使用できます。
- 端子保護ホルダー／スタンドの三脚用ネジ穴（1/4インチ）で、三脚に取り付けることも可能です。
三脚に取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚をお使いください。ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、端子保護ホルダー／スタンドを傷つけることがあります。

ご注意

- レシーバーを使用しないときは、マルチインターフェースフットに端子保護ホルダー／スタンドを取り付けて保護してください。

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

カメラに接続して録音する

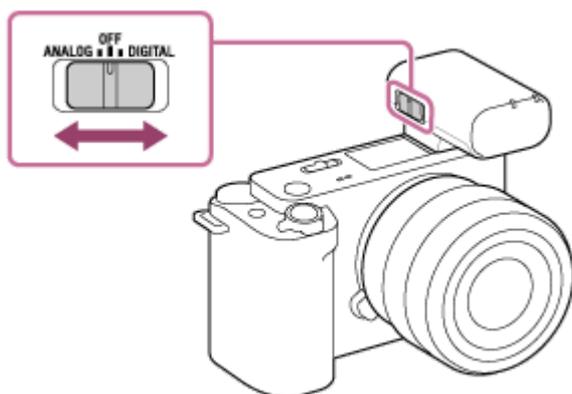
カメラに取り付けたレシーバーと、手元のマイクロホンで音声を録音します。

1 カメラの電源を入れ、スタンバイ状態にする。

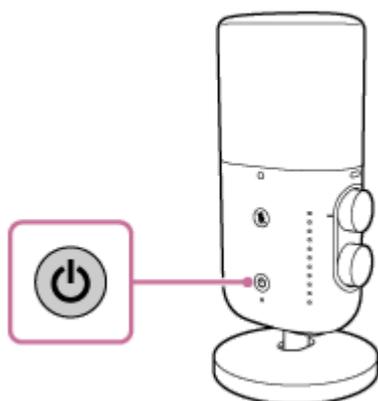
2 レシーバーとマイクロホンの電源を入れる。

- レシーバーのスライドスイッチ（ANALOG/OFF/DIGITAL）で希望の出力方法を選択します。お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース対応機器の場合は「DIGITAL」に、非対応機器の場合は、「ANALOG」に設定されていることを確認してください。正しく設定されていない場合、互換性についてのメッセージが表示されます。対応機器については、以下のサイトでご確認ください。

<https://www.sony.net/dics/ecms1/>



- マイクロホンの （電源）ボタンを約2秒間押し続けます。



レシーバーとマイクロホンの電源を入れると、直後にマイクロホンのLINKランプ（青）が遅い点滅をします。この状態で相手の機器を探索し、通信接続、認証を行っています。接続状態になり音声を明瞭に記録できる状態になると、両方のLINKランプ（青）が点灯します。

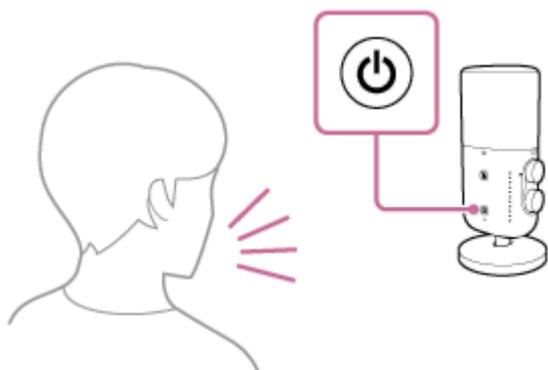
接続状態にならない場合は、マイクロホンとレシーバーを近づけてお試しください。環境等の影響を受けている場合があります。

3 レシーバーのLINKランプ（青）が点灯していることを確認したうえで、カメラで録画を開始する。

録音時はマイクロホンの （電源）ボタンのある面を音源に向けてください。

インジケータを確認しながらAUDIO LEVELダイヤルを回して録音レベルを調節してください。または、音源とマイクロホンの距離を調節してください。

- 通常の音量で収録している場合：インジケータのオレンジ色のランプが点灯しないように調節してください。
- 非常に大きな音が収録される場合：インジケータの赤色のランプが点灯しないように調節してください。



ご注意

- ご使用後はレシーバーのスライドスイッチを「OFF」にし、マイクロホンの （電源）ボタンを約2秒間押し続けて電源を切ってください。
- 本機をアナログ接続した場合、お使いいただく環境によってはノイズが録音される場合があります。
- デジタル対応マルチインターフェースシュー搭載のカメラや、USBオーディオ入力対応機器をご使用の場合、デジタル接続を行ってください。また、無線機器が近くにある場合は本機を十分に離してご使用ください。
- 録画中にマイクロホンのフィルタースイッチ、指向性切り替えスイッチまたはAUDIO LEVELダイヤルを操作すると、操作音が録音されてしまうことがあります。必ずいったん録画を停止してから切り替えてください。
- 本機を使用して撮影すると、録画スタート時に操作音（電子音）が記録される場合があります。お使いのカメラの操作音（電子音）の設定を無効にしてから録画することをおすすめします。詳しくは、お使いのカメラの取扱説明書をご覧ください。
- レシーバーは、カメラからも電源が供給されます。（電源は供給されますが、レシーバーの充電はされません。）ご使用のカメラによっては、電源が供給されない場合があります。対応機種については、以下のサイトでご確認ください。
<https://www.sony.net/dics/ecms1/>

関連項目

- [ランプ表示](#)

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

マイクロホンとパソコンやスマートフォンなどを有線接続して録音する

パソコンやスマートフォンなど、USBオーディオ入力対応機器にマイクロホンを接続して録音することができます。

ご注意

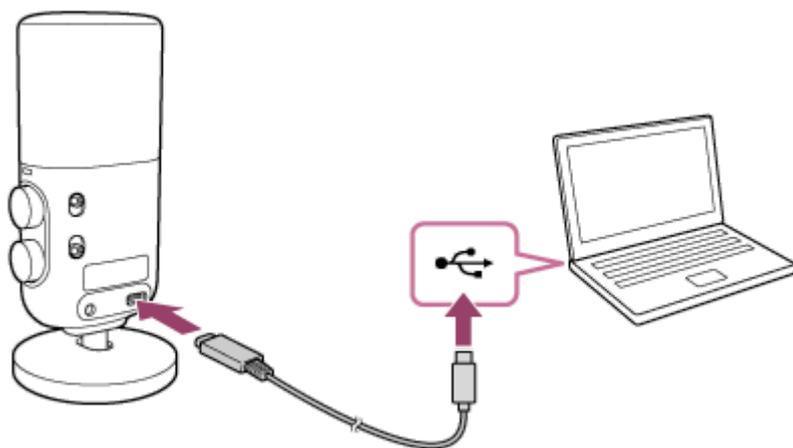
- パソコンやスマートフォンなどの操作については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- マイクロホンをパソコンやスマートフォンなどに接続して録音するには、お使いの機器がUSB Audio Class 1.0に対応している必要があります。
- マイクロホンをパソコンやスマートフォンなどに接続する際は、接続する機器の端子を確認して、対応したケーブル、または変換アダプターなどをお使いください。

1 マイクロホンの (電源) ボタンを約2秒間押し続けて、電源を入れる。

 (電源) ランプ (緑) が点灯します。

2 市販のUSB Type-Cケーブルを使い、USBオーディオ入力対応機器にマイクロホンを接続する。

 (電源) ランプがオレンジに変わります。



3 正しく認識されているかを確認したうえで、録音を開始する。

ご注意

- 録音中にマイクロホンのフィルタースイッチ、指向性切り替えスイッチまたはAUDIO LEVELダイヤルを操作すると、操作音が録音されてしまうことがあります。必ずいったん録音を停止してから切り替えてください。

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

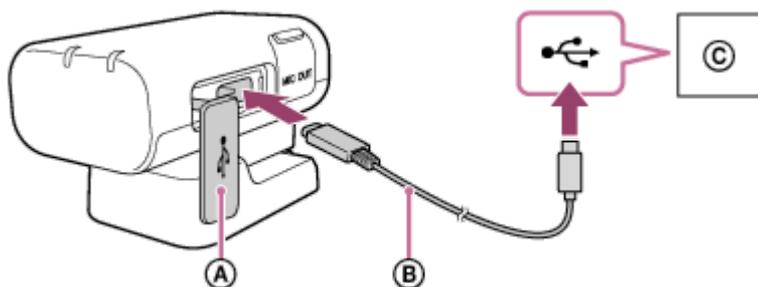
パソコンやスマートフォンなどと無線接続して録音する

パソコンやスマートフォンなどのUSBオーディオ入力対応機器に接続したレシーバーと、手元のマイクロホンで音声を録音します。

ご注意

- パソコンやスマートフォンなどの操作については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- 接続する前に、レシーバーとマイクロホンを十分に充電してください。
- レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続して録音するには、お使いの機器がUSB Audio Class 1.0に対応している必要があります。
- レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続する際は、接続する機器の端子を確認して、対応したケーブル、または変換アダプターなどをお使いください。

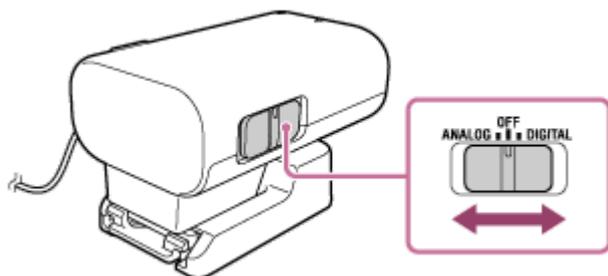
- 1 端子カバーを開けて、レシーバーと起動しているパソコンまたはスマートフォンなどを市販のUSB Type-Cケーブルで接続する。



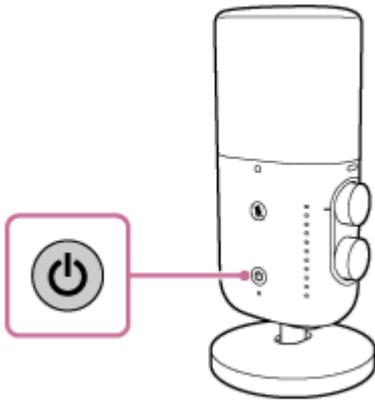
- Ⓐ 端子カバー
- Ⓑ USB Type-Cケーブル
- Ⓒ パソコンやスマートフォンなど

- 2 レシーバーとマイクロホンの電源を入れる。

- レシーバーのスライドスイッチ (ANALOG/OFF/DIGITAL) で、「ANALOG」または「DIGITAL」を選択します。
USB接続しているときは、「ANALOG」または「DIGITAL」の選択に関わらずデジタル出力になります。



- マイクロホンの  (電源) ボタンを約2秒間押し続けます。



レシーバーとマイクロホンの電源を入ると、直後にマイクロホンのLINKランプ（青）が遅い点滅をします。この状態で相手の機器を探索し、通信接続、認証を行っています。接続状態になり音声を明瞭に記録できる状態になると、両方のLINKランプ（青）が点灯します。

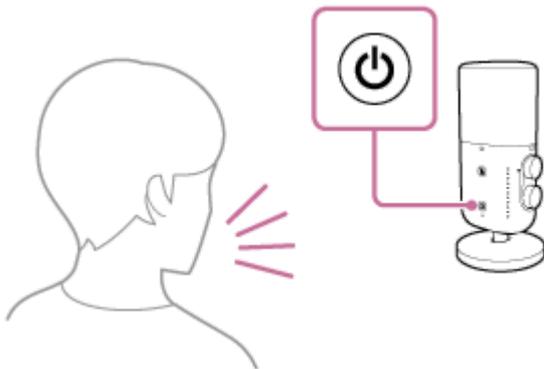
接続状態にならない場合は、マイクロホンとレシーバーを近づけてお試しください。環境等の影響を受けている場合があります。

3 レシーバーのLINKランプ（青）が点灯していることを確認したうえで、録音を開始する。

録音時はマイクロホンの （電源）ボタンのある面を音源に向けてください。

インジケータを確認しながらAUDIO LEVELダイヤルを回して録音レベルを調節してください。または、音源とマイクロホンの距離を調節してください。

- 通常の音量で收音している場合：インジケータのオレンジ色のランプが点灯しないように調節してください。
- 非常に大きな音が收音される場合：インジケータの赤色のランプが点灯しないように調節してください。



ご注意

- ご使用後はレシーバーのスライドスイッチを「OFF」にし、マイクロホンの （電源）ボタンを約2秒間押し続けて電源を切ってください。
- お使いいただく環境によってはノイズが録音される場合があります。
- 無線機器が近くにある場合は本機を十分に離してご使用ください。
- 録音中にマイクロホンのフィルタースイッチ、指向性切り替えスイッチまたはAUDIO LEVELダイヤルを操作すると、操作音が録音されてしまうことがあります。必ずいったん録音を停止してから切り替えてください。
- 本機を使用して撮影すると、録音スタート時に操作音（電子音）が記録される場合があります。パソコンやスマートフォンなどの操作音（電子音）の設定を無効にしてから録音することをおすすめします。詳しくは、パソコンやスマートフォンなどの取扱説明書をご覧ください。

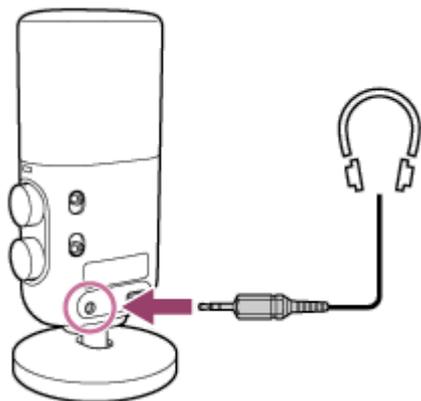
ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

音声をモニターする

マイクロホンとパソコンやスマートフォンなどをUSB接続して録音する際に、市販のヘッドホンをマイクロホンにつなぐと、音声をモニターすることができます。

① 市販のUSB Type-Cケーブルを使い、起動しているパソコンやスマートフォンなどにマイクロホンをつなぐ。

② ヘッドホン出力端子に市販のヘッドホンを接続する。



③ パソコンやスマートフォンで音声を録音できるソフトを起動し、「ECM-S1」を選択する。

ご注意

- パソコンやスマートフォンなどとUSB接続していないときにヘッドホンを接続しても、音声をモニターすることはできません。

関連項目

- [マイクロホンとパソコンやスマートフォンなどを有線接続して録音する](#)
- [ヘッドホン音量を調整する](#)
- [MIX比を調整する](#)
- [ランプ表示](#)

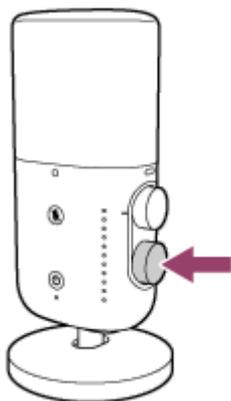
ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

ヘッドホン音量を調整する

マイクロホンのヘッドホン音量/MIX比調整ダイヤルで、モニターするときのヘッドホン音量を調整することができます。

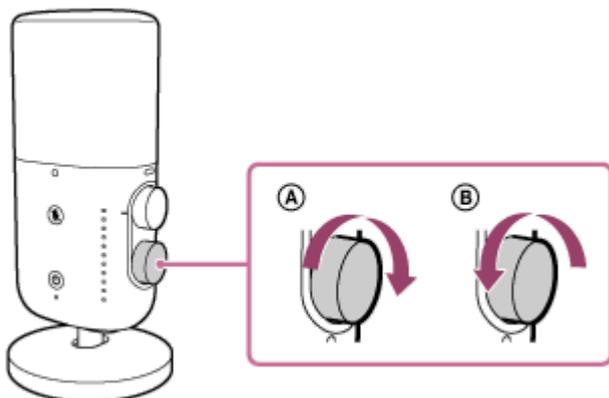
① ヘッドホン音量/MIX比調整ダイヤルを短く押して、ヘッドホン音量調整モードにする。

インジケータのランプ表示が、レベルメーターモードからヘッドホン音量調整モードに変わります。
詳しくは、「[ランプ表示](#)」をご覧ください。



② ヘッドホン音量/MIX比調整ダイヤルを左右に回し、ヘッドホン音量を調整する。

録音される音量に影響はありません。



- ヘッドホン音量を大きくする場合は、ダイヤルを右に回します (A)。
- ヘッドホン音量を小さくする場合は、ダイヤルを左に回します (B)。

ヘッドホン音量調整モードを終了するには

ヘッドホン音量/MIX比調整ダイヤルを短く押してください。
インジケータのランプ表示が、ヘッドホン音量調整モードからレベルメーターモードに変わります。

ご注意

- 3秒以上操作しない状態が続くと、ヘッドホン音量調整モードは自動的に終了し、インジケータの表示がレベルメーターモードに戻ります。

関連項目

- [マイクロホンとパソコンやスマートフォンなどを有線接続して録音する](#)
- [MIX比を調整する](#)

5-054-814-01(1) Copyright 2023 Sony Corporation

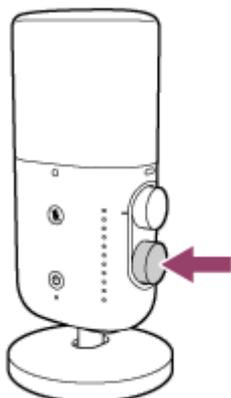
ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

MIX比を調整する

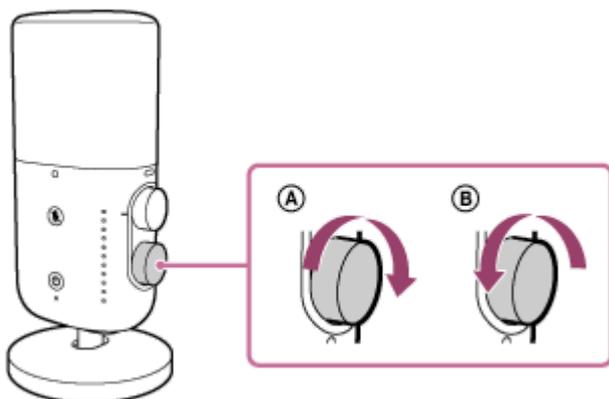
マイクロホンのヘッドホン音量/MIX比調整ダイヤルで、マイクロホンから入力される音声音量と、パソコンやスマートフォンなどからのUSB入力音量のMIX比を調整することができます。

1 ヘッドホン音量/MIX比調整ダイヤルを約2秒間押し続ける。

インジケータのランプ表示が、レベルメーターモードからMIX比調整モードに変わります。
インジケータの中央のランプが白色に点灯します。
詳しくは、「[ランプ表示](#)」をご覧ください。



2 ヘッドホン音量/MIX比調整ダイヤルを左右に回し、MIX比を調整する。



- マイクロホン側の出力音量比率を大きくする場合は、ダイヤルを右に回します (A)。
- 接続したパソコンやスマートフォン側の出力音量比率を大きくする場合は、ダイヤルを左に回します (B)。

MIX比調整モードを終了するには

ヘッドホン音量/MIX比調整ダイヤルを短く押してください。
インジケータのランプ表示が、MIX比調整モードからレベルメーターモードに変わります。

ご注意

- MIX比の調整は、ヘッドホン出力端子から出力される音声に対してのみ有効です。録音される音声には影響ありません。

- 3秒以上操作しない状態が続くと、MIX比調整モードは自動的に終了し、インジケータの表示がレベルメーターモードに戻ります。

関連項目

- [音声をモニターする](#)

5-054-814-01(1) Copyright 2023 Sony Corporation

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

ランプ表示

機器や通信の状態によって、ランプは以下のように点灯・点滅・消灯します。

● : 点灯 (緑色) / ● : 点灯 (オレンジ色) / ● : 点灯 (青色) / ● : 点灯 (赤色) / ○ : 点灯 (白色) / - : 消灯

電源ランプ / 電源ランプ

- 電源を入れた直後
 -  (緑色で点灯) *
- レシーバーの電源を切ったとき
 - レシーバー
- (消灯)
 - マイクロホン
 -  (緑色で点灯) *
- マイクロホンの電源を切ったとき
 - レシーバー
 -  (緑色で点灯) *
 - マイクロホン
- (消灯)
- バッテリー残量が少なくなってきたとき
 -    (オレンジ色で2回点滅後、緑色で点灯)
- バッテリーがほとんど残っていないとき
 -      (オレンジ色で点滅し続けている)
- 充電しているとき
 -  (オレンジ色で点灯)

* USB接続中はオレンジ色で点灯となります。

LINKランプ

- 電源を入れた直後
 - レシーバー
- (消灯 (待ち受け状態)) *¹
 - マイクロホン
 -      (青色で遅い点滅 (待ち受け状態)) *¹ *²
- 接続状態になり、音声が見事に記録できる
 - レシーバー

-  (青色で点灯)
 - マイクロホン
-  (青色で点灯) *2
- レシーバーの電源を切ったとき
 - レシーバー
 - (消灯)
 - マイクロホン
 -  (青色で遅い点滅 (待ち受け状態)) *1 *2
- マイクロホンの電源を切ったとき
 - レシーバー
 - (消灯 (待ち受け状態)) *1
 - マイクロホン
 - (消灯)
- 通信状態が悪く音声途切れるとき
 - レシーバー
 -  (青色で点滅 (点滅が速くなるほど、通信状態が悪い状態)) *3
 - マイクロホン
 -  (青色で点滅 (点滅が速くなるほど、通信状態が悪い状態)) *2 *3
- 充電しているとき
 - (消灯)

*1 この状態が5分続くと、本機のオートパワーオフ機能が働きます。使用を再開するためには、本機の電源を切ってから、再度電源を入れてください。

*2 マイクロホンを有線接続して録音するときは消灯します。

*3 通信状態をレシーバーとマイクロホンのLINKランプで確認してください。周囲の無線状況や、障害物が多い場合など、通信状態が悪化して音声途絶えたり、ノイズが発生することがあります。その場合は、LINKランプ (青) が点滅します。距離が適切か、障害物がないかなど確認し、LINKランプ (青) が安定して点灯している状態でご使用ください。

🔇 (消音) ランプ (マイクロホン)

- 消音モードがオフのとき
 - (消灯)
- 消音モードがオンのとき
 -  (赤色で点灯)

🔊 インジケーター (マイクロホン)

- レベルメーターモード

初期設定の表示です。録音される音量に応じて、点灯するランプの数が変わります。



インジケーターを確認しながらAUDIO LEVELダイヤルを回して録音レベルを調節してください。または、音源とマイクロホンの距離を調節してください。

 - 通常の音量で収録している場合：インジケーターのオレンジ色のランプが点灯しないように調節してください。
 - 非常に大きな音が収録される場合：インジケーターの赤色のランプが点灯しないように調節してください。
- ヘッドホン音量調整モード

ヘッドホン音量調整/MIX比調整ダイヤルを短く押したときの表示です。

● ● ● ● ● ● ----- (ヘッドホン音量レベルに応じて、オレンジ色で点灯。オレンジ色のランプ点灯が多いほど、ヘッドホン側の出力音量比率が大きいことを表します。)

- MIX比調整モードのとき

ヘッドホン音量調整/MIX比調整ダイヤルを約2秒間押し続けたときの表示です。

-----○----- (マイクロホンから入力される音声音量と、パソコンやスマートフォンなどからのUSB入力音量のMIX比に応じて、中央のランプ(白)を基点に、上下のランプがオレンジ色で点灯。中央のランプ(白)より上側のランプがオレンジ色で点灯すると、マイクロホン側の出力音量比率が大きいことを表します。)

関連項目

- [各部の名称](#)
- [ヘッドホン音量を調整する](#)
- [MIX比を調整する](#)

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

使用上のご注意

スタートガイド（付属）の「取り扱い上のご注意」もあわせてお読みください。

- 録音中に本機または市販の ϕ 3.5 mmプラグ付きTRSオーディオケーブルに触れると、ノイズとして録音される場合があります。
- 本機をアナログ接続した場合、お使いいただく環境によってはノイズが録音される場合があります。
- デジタル対応マルチインターフェースシュー搭載のカメラや、USBオーディオ入力対応機器をご使用の場合、デジタル接続を行ってください。また、無線機器が近くにある場合は本機を十分に離してご使用ください。
- 使用中、ヘッドホンをマイクロホンに近づけると「ピー」という音が発生することがあります（ハウリング現象）。その場合は、ヘッドホンとマイクロホンの距離をできるだけ離すか、ヘッドホンの音量を下げてください。
- レシーバーを持ってカメラを持ち上げないでください。レシーバーが破損したり、カメラが落下する恐れがあります。
- レシーバーを持ち歩く際は、端子部の破損防止のためにも、カメラから取り外して付属の端子保護ホルダー／スタンドを取り付け、ポーチに入れてください。
- マイクロホンにほこりや水滴などが付着していると、正しく録音されないことがあります。取り除いてから使用してください。
- レシーバーを使用しないときは、マルチインターフェースフットに端子保護ホルダー／スタンドを取り付けて保護してください。
- 温度の低い場所でマイクロホンをご使用になる場合は、常温時（25℃）に比べて電池の性能が低下しますので、使用できる時間が短くなります。
- 本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能の使用を中止してください。電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となる恐れがあります。
- マイクロホン本体に付けたスタンド／ポップガードを持って無理な力を加えたり振り回したりすると、スタンド／ポップガードが外れ、怪我につながる可能性があります。持ち運びの際はマイクロホン本体を持ち、取り扱いにご注意ください。

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

Bluetooth[®]無線通信技術について

- Bluetooth無線通信技術とは、パソコンとその周辺機器、スマートフォンなど、さまざまな機器同士を無線で接続し、相互の通信を可能にする技術の名称です。
- 本機は製造時にレシーバーとマイクロホンのペアで通信できるように設定されています。そのため一般のBluetooth機器に必要なペアリングやパスキーの入力操作は必要ありませんが、本機以外のBluetooth機能搭載デバイスとは通信できません。

ご注意

- 本機は以下の状況において通信感度に影響を受けることがあります。
 - レシーバー前部とマイクロホンの間に人体や金属、壁または反射面などの障害物がある場合
 - 無線LANが構築されている場所、複数のBluetooth機器を近距離で使用している場所、電子レンジを使用中の周辺、その他電磁波が発生している場所など
- マイクロホンをカメラに近づけすぎると、電波の影響で、記録される音声にノイズが入る場合があります。1 m以上離れた状態でご使用ください。
- 通信状態をレシーバーとマイクロホンのLINKランプで確認してください。周囲の無線状況や、障害物が多い場合など、通信状態が悪化して音声が途絶えたり、ノイズが発生することがあります。その場合は、LINKランプ（青）が点滅します。距離が適切か、障害物がないかなど確認し、LINKランプ（青）が安定して点灯している状態でご使用ください。

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

主な仕様

通信仕様

| | |
|--------------------|-----------------------------|
| 通信方式 | Bluetooth標準規格 Ver. 5.3 |
| 出力 | Bluetooth標準規格 Power Class 1 |
| 主なBluetoothプロファイル | Generic Attribute Profile |
| コーデック | LC3plus ^{*1} |
| 通信距離 ^{*2} | 最大 150 m |

*1 LC3plusはECM-S1で使用されているオーディオ規格です。

*2 マイクロホンを立てて、レシーバーを真っ直ぐに向かい合わせたときの目安となる距離です。金属、人体などの障害物や反射面の有無など周囲の状況や電波状況により変化します。

レシーバー

| | |
|------------|--|
| マイク出力端子 | Ø3.5 mmミニジャック (ステレオ) |
| USB端子 | USB Type-C |
| 電源 | 内蔵リチウムイオンバッテリー (約3.7 V) / マルチインターフェースシューから供給 |
| 定格電圧 | 5 V  |
| 消費電力 (約) | 0.18 W |
| 連続使用時間 (約) | <ul style="list-style-type: none"> ● 3時間 (内蔵バッテリー満充電、アナログ音声出力使用時) ● 18時間 (マルチインターフェースシューから供給時) |
| 充電時間 (約) | 2時間* (パソコン経由) |
| 外形寸法 (約) | 32 mm × 29 mm × 50 mm (幅/高さ/奥行き) |
| 質量 (約) | 25 g |

* 充電式電池の残量がない状態から、パソコンのUSB充電ポート (CDP (Charging Downstream Port)) を使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

マイクロホン

| | |
|-------------------|---|
| 形式 | バックエレクトレットコンデンサー型 |
| サンプリング周波数/量子化ビット数 | 48 kHz/16 bit、48 kHz/24 bit ^{*1} |
| 周波数特性 | 20 Hz~20 000 Hz |

| | |
|--------------|---|
| 指向特性 (切替) | モノラル 単一指向性/モノラル 全指向性/ステレオ 単一指向性 |
| 正面感度*2 | -20 dBFS (0.1 Pa、1 kHz) |
| 固有雑音*2 *3 *4 | 19 dB SPL以下 (0 dB=2×10 ⁻⁵ Pa) |
| 風雑音*2 *4 *5 | 30 dB SPL以下 |
| 最大入力音圧レベル | 120 dB SPL *2 *6 |
| ダイナミックレンジ*3 | 101 dB以上 |
| ヘッドホン端子 | Ø3.5 mmミニジャック (ステレオ) |
| USB端子 | USB Type-C |
| 電源 | 内蔵リチウムイオンバッテリー (約3.85 V) |
| 定格電圧 | 5 V  |
| 消費電力 (約) | 0.16 W |
| 連続使用時間 (約) | 13時間 (内蔵バッテリー満充電時) |
| 充電時間 (約) | 2時間*7 (パソコン経由) |
| 外形寸法 (約) | 63 mm × 137.5 mm × 63 mm (幅/高さ/奥行き) (スタンド含む) |
| 質量 (約) | 157 g (スタンド含む) |

*1 24ビット音声に対応していない機器やソフトウェアで24ビット音声で記録された動画を再生すると、意図せず大きな音が出たり、音が出ないなど、正常に再生されない場合があります。

*2 AUDIO LEVELダイヤル=8

*3 スライドスイッチ=DIGITAL

*4 指向性切り替えスイッチ=  (モノラル 単一指向性)、フィルタースイッチ=LC

*5 マイクロホンの各方向に風速2 m/秒の気流を当てたとき、マイクロホンに発生する雑音出力の平均値を等価入力音圧に換算した値。(0 dB=2×10⁻⁵ Pa)

*6 マイクロホンの出力信号が1 kHzで1%の波形ひずみを生じる入力レベルの等価入力音圧換算値 (0 dB=2×10⁻⁵ Pa)

*7 充電式電池の残量がない状態から、パソコンのUSB充電ポート (CDP (Charging Downstream Port)) を使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

その他

| | |
|------|---------------|
| 動作温度 | 0 °C~40 °C |
| 保存温度 | -20 °C~+55 °C |

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

商標について

- Bluetooth[®]ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニーグループ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- Multi Interface Shoe（マルチインターフェースシュー）はソニーグループ株式会社の商標です。
- USB Type-C[®]およびUSB-C[®]はUSB Implementers Forumの登録商標です。

ワイヤレス/ストリーミングマイクロホン
ECM-S1

「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」と表示されたら

以下の順番で確認してください。

1 本機に対応しているカメラをお使いですか？

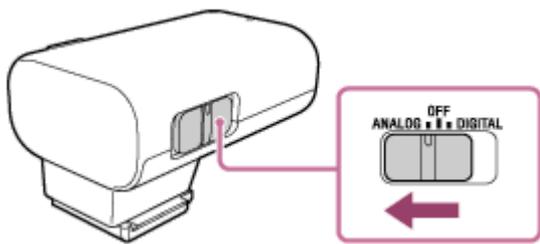
本機に接続可能なカメラについては、以下のサイトでご確認ください。

<https://www.sony.net/dics/ecms1/>

ご注意

- 上記のサイトに記載がないカメラの場合は、本機と組み合わせてお使いいただくことはできません。

2 デジタルオーディオインターフェース非対応のカメラを本機と使う場合は、レシーバーのスライドスイッチを「ANALOG」に設定してください。



3 レシーバーやカメラの接点がほこりなどで汚れている場合は、認識されないことがあります。綿棒や乾いた柔らかい布（クリーニングクロスなど）で汚れをふき取ってください。水や薬品などは使わないでください。

ご注意

- スライドスイッチが、「ANALOG」、「OFF」または「DIGITAL」のいずれかの位置に確実に設定されていることを確認してください。それぞれの間中に位置していると、正しく動作しない場合があります。